

即興で話すこと [やり取り] の力を育成する指導の在り方

～Reaction, Comment, Question の適用と

やり取りの視点に基づいたルーブリックの活用を通して～

白河市立白河中央中学校 福島県教育センター 長期研究員 鈴木 淳子

1 研究の趣旨

グローバル化が急速に進んでおり、実際のコミュニケーション場面において即興で伝え合うことができる力を育成することは急務である。新学習指導要領では、言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指すことが目標とされた。また、互いの考えや気持ちなどを伝え合う対話的な言語活動を一層重視する観点から、「話すこと [やり取り]」の領域が新設され、「即興で伝え合うことができるようにする」ことが、話すこと [やり取り] の目標の一つとされた。そこで、目的や場面、状況に応じて主体的に判断し、一つの話題について発展させながら継続できる力を即興で伝え合う力とし、その育成を目指した。

以下の手だてに基づいて学習活動を工夫すれば、即興で話すこと [やり取り] の力を育成することができるであろう。

【手だて1】 発話への Reaction, Comment, Question の適用

【手だて2】 やり取りの視点に基づいたルーブリックの活用

2 研究の概要

(1) 【手だて1】 発話への Reaction, Comment, Question の適用

Reaction (反応する、以下“R”)、Comment (意見や感想を述べる、以下“C”)、Question (質問する、“Q”) ※¹は生徒が頼りやすく、それらを単独もしくは組み合わせて発話場面に適用させることにより、英語を話すことへの不安や心理的負担の軽減を図りながらやり取りを継続・発展させることができると考えた。R、C、Q を用いて即興でやり取りをする活動を設定し、有効性を体感させながら、相手の発話に応じて生徒が適切に対処できるようにすることを目指した。

※1 英語教育 2018年12月号 田村岳充 (大修館書店 2018)

(2) 【手だて2】 やり取りの視点に基づいたルーブリックの活用

話すこと [やり取り] に特化したルーブリックを作成し、即興でやり取りをする活動の場面で活用させることで、どのような対話がやり取りを継続させるものであるのかを生徒に理解させたり、現在のやり取りの力を自覚させたりした。また、次にどのようなやり取りを目指せばよいのか見通しをもって活動できるようにした。

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ① R、C、Q を指導し、即興でやり取りをする活動を行った結果、指導前と指導後で、発話語数とやり取りの往復数が増加した。
- ② ルーブリックによる自己評価の結果では、「相手が沈黙した時に自分から働きかけた」「最後まで1つの話題について話した」「思いつく英語をつなげて会話を続けた」「相手が話したことについて質問して会話を続けた」等のことができるようになった。

(2) 今後の課題

- ① 即興でやり取りをする活動においては、与えた話題によって、発話語数ややり取りの往復数に差が見られた。やり取りの力の変容を見るためには、話題の与え方に工夫が必要である。
- ② 発話語数とルーブリックによる自己評価の間に見られた相関は弱いものであった。ルーブリックの内容や表現を改善し、信頼性や妥当性を高めていく必要がある。